

委員会活動報告

交流委員会

交流セミナーを通じて

—— 六鹿 正治 氏を招いて



野原 誠

■交流委員会C・Dグループでは、年二回正会員賛助会員双方の資質向上を求めて交流セミナーを開催しております。今回はFグループの参加で約80名の熱気溢れるセミナーとなりました。

■テーマ「荒波を突き抜ける最新作」

講師：六鹿 正治 氏 (株)日本設計 代表取締役社長

(日時：7月22日 16:00 - 会場：INAX GINZA)

内容は大変厳しい経済状況の中で賛助会員にとって前途に光明を見出すことのできる、また勇気づけられるものでありました。

4部構成「ご自身の歩んでこられた時代と建築」「自社の経営の現在」「荒波を突き抜ける方法」「最新作」でユーモアを交えながら、建築家(プロジェクトのマネージャー)が経営者(組織のマネージャー)になった当時のご苦労話から始まりました。

マネジメントとは目標の為に、ヒト・トキ・カネ・モノの運用管理すること。

個人の設計事務所なら100%自分の信念と方針だけで経営することができるが、組織事務所となると歴史上のある時期に引き継いで経営を担当することになるので、組織の固有のDNAと新しい改革のあいだでいろいろ折り合いをつけるべきことがあるとの話が印象的でした。

日本設計の伝統はチームワーク、技術、都市計画、環境、プロフェッショナリズムなどの重視ということで、皆の会社、自主管理など、経営への意識が固有のDNAとして捉えられています。DNAには強みも弱みもあるので、それを理解しながら改革を進める重要性が語られました。

2001年改革の方向性は①新しい時代の認識 ②組織体制と業務プロセスの大改革 ③DNAの優れた部分は受け継ぐ ④常時改革ということで、組織の基本理念を共有することが大事ということです。組織の行動の基本理念は以下の7か条にまとめられています。

- ①クライアントを尊重する
- ②個人を大事にする
- ③チームワークを磨く
- ④創造性を養う
- ⑤技術力を高める
- ⑥環境を守り育てる
- ⑦社会的に正しくある。

そして経営者としては常にPQRのバランスを追求して

いて、仕事の品質、社会の評価、そして会社が健全に存続できるだけの利益が共に得られるよう努力しているということです。

時々刻々変化する社会経済情勢(市場経済の変化、行政・制度の変化、社会・意識の変化)の中で、国内的には人口減少・少子高齢化、国際的には都市間競争、地球的には環境問題が大きな課題として存在します。それに昨今、安全保障や金融経済危機が問題になっています。

今後の仕事の傾向として、教育施設系の展開、環境系の展開、再開発系の展開(息の長いもの)が目立つでしょうということで最新の実例をお示しになりながらご説明をうけました。多くの賛助会員が勇気づけられたことと思います。

最後にキーワードとして、環境・LCC(Life Cycle Cost)・コンパクト・複合・コントラスト・安心安全・パーソナルを拝聴させていただき今後の指針と受け止め、有意義なセミナーに参加できましたことを感謝申し上げます。



←セミナー風景

↓Q&A



終了後の懇親会にも出席願い、講演中同様に質疑応答の中にぎにぎしく宴も盛り上がり、感銘の一日となりました。



<三協立山アルミ(株)>